

リョービマジクス株式会社の前身としての有限会社晃文堂が  
神田鍛冶町に創立されたのは1947年11月18日とされている。

しかしすでにその1年ほど前(1946年9月15日)から敗戦の焦土  
をかきわけて北区王子神谷町の山口木材工業所の一角に建てた  
5坪ほどのバラックをちいさな工場にあてて、戦災による焼損  
機ではあったがトムソン型活字鑄造機 Thompson Type-caster  
(林栄社製)と、手回し式のブルース活字鑄造機 Bruce's pivotal  
typecasterを修理しながら、ほそぼそと活字鑄造がはじめられ  
たことは意外に知られていないようだ。

たまたま『こうぶん』と題する晃文堂時代のふるい社内報の  
つづりを見る機会を得た。そこに「晃文堂20年の歩み」と題し  
て、晃文堂すなわち現在のリョービマジクスの創業者・吉田  
市郎(Ichiro Yoshida 1921.1.28-)が1969.11(vol.18)–1970.1(vol.19)  
と2回にわたって同社の創業時代を回顧する記事を寄稿してい  
る。その記録をしばらくおってみよう。

吉田市郎は戦時中の1942年9月に名古屋高等商業学校(現名  
古屋大学経済学部)を繰り上げ卒業して三井物産に就職したもの  
のまもなく戦地に駆り出された。軍隊とはいってもおもには経  
理畑を担当して、1945年8月15日の敗戦時には東京の第一航空  
軍司令部経理部に勤務する主計少尉として終戦を迎えた。

東京で召集解除となった吉田は三井物産に復職したものの、  
GHQ(連合軍総司令部)によって同社が財閥解体を命じられた  
ために2ヶ月あまりで退社を余儀なくされた。そこでやむなく  
軍隊時代の縁をたどって神田神保町の明和印刷株式会社の営業

走れメロス

メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには  
政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らして来た。けれども  
邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、  
十里はなれた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六  
の、内気な妹と二人暮しだ。この妹は、村の或る律儀な一牧人を、近々、花婿として迎える事  
になっていた。結婚式も間近かなのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣装やら祝宴の御馳  
走やらを買いに、はるばる市にやって来たのだ。先ず、その品々を買い集め、それから都の大  
路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今は此のシク  
ラスの市で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく逢わな  
ったのだから、訪ねて行くのが楽しみである。歩いていくうちにメロスは、まちの様子を怪し  
く思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りまえだが、けれども  
なんだか、夜のせいばかりでは無く、市全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん  
不安になって来た。路で逢った若い衆をつかまえて、何かあったのか、二年まえに此の市に  
来たときは、夜でも皆が歌をうたって、まちは賑やかであつた筈だが、と質問した。若い衆は、  
首を振って答えなかつた。しばらく歩いて老翁に逢い、こんどはもつと、語勢を強くして質問